

平成 10 年度

# 村 内 遺 跡

1999

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

## 例　　言

1. 本報告書は、平成10年度国庫補助事業として試掘調査を行った村内遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査体制は、教育長　浅井多津男、社会教育課長　品川良治、課長補佐　高山登志男、文化財係長　大友一男、主査　羽鳥政彦（担当）である。
3. 調査に要した経費は、国宝重要文化財保存整備費補助金、群馬県文化財保存事業費補助金、村費があてられた。
4. 各遺跡の所在地、調査期間等は本文中に記した。
5. 本報告書の編集・執筆等は羽鳥が行った。
6. 本発掘調査における記録資料や出土遺物は富士見村教育委員会事務局で保管している。

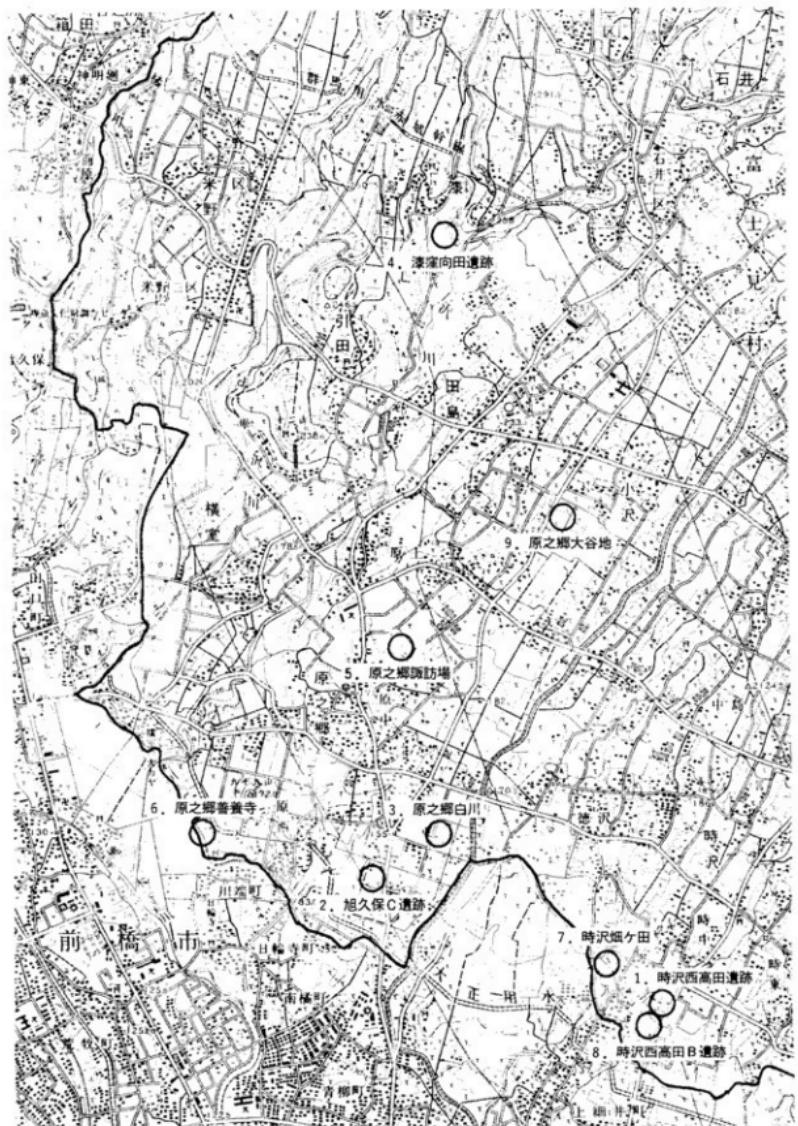
## 凡　　例

1. 第1図は国土地理院発行1：25000地形図「渋川」を用いた。調査地の地形図は富士見村役場発行1：2500原形図を1：5000に縮小し用いている。
2. 地形図の方位は上が北である。トレンチ配置図の方位は一定していない。
3. トレンチ配置図の縮尺は一定していないが、各図に縮尺を表記している。

## 目　　次

### 例言・凡例

調査地の位置	1
1. 時沢西高田遺跡	2
2. 旭久保C遺跡	3
3. 原之郷白川	4
4. 漆窪向田遺跡	5
5. 原之郷諏訪場	6
6. 原之郷善養寺	7
7. 時沢畠ヶ田	8
8. 時沢西高田B遺跡	9
9. 原之郷大谷地	10
写真図版	



第1図 調査地の位置 (1 : 25000)

## 1. 時沢西高田遺跡

### 所在地

勢多郡富士見村大字時沢字西高田114番地1外

### 調査原因

共同住宅・分譲住宅建設

### 調査期間

平成10年4月27・28日、6月25日

開発面積 2,215m<sup>2</sup>

調査面積 400m<sup>2</sup>



第2図 時沢西高田遺跡

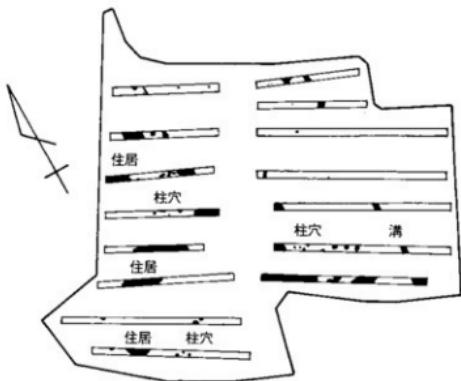
### 調査の経緯

調査地は周知の遺跡ではなかったが、開発計画が把握できた段階で遺物散布調査を行ったところ、土師器等の遺物が散布しており、遺跡の存在が予想されたため試掘調査を行う必要が生じた。

### 調査の結果

北西端部がもっとも浅く、約20cmの表土（耕作土）層下にローム面が検出され、東側あるいは南側へと移るに従い表土層の厚さが増していく。東端部を除くほぼ全面から遺構・遺物が検出された。検出された遺構は竪穴住居跡10棟以上、掘立柱建物跡を含む柱穴30基以上、土坑、溝跡などで、時期は出土した遺物から奈良～平安時代と予想された。

遺跡の保護措置は共同住宅の建物部分と分譲住宅部分を中心記録保存のため発掘調査を行い、駐車場予定地は盛土保存を行うこととなった。



第3図 トレンチ配置図 (1 : 750)

## 2. 旭久保C遺跡

所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字旭之内952番1外

調査原因

店舗建設

調査期間

平成10年5月7日～5月21日

開発面積 4,547m<sup>2</sup>

調査面積 750m<sup>2</sup>



第4図 旭久保C遺跡

### 調査の経緯

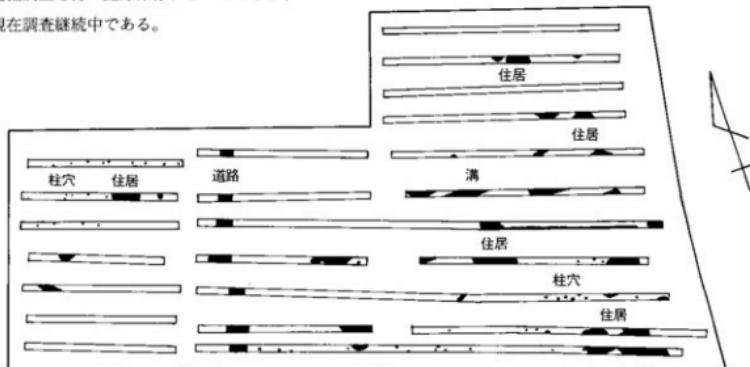
調査地は平成7・8年度に調査を行った旭久保遺跡に北接しており、また、地表面には縄文時代を主とする多量の遺物が散布している。今回店舗建設が計画されたため、試掘調査を行う必要が生じた。

### 調査の結果

調査地のほぼ全面から縄文時代の遺物包含層、古墳時代～平安時代の住居跡、柱穴、溝跡、中世の道路跡などが検出されている。特に縄文時代の遺物包含層は北半部で厚く、浅いところでは10～20cmの表土層直下から完形・半完形の土器も出土している。遺跡の保護措置は、南側の駐車場部分は盛土により現状保存、掘削の予想される北側の建物部分については

発掘調査を行い記録保存することとなり、

現在調査継続中である。



第5図 トレンチ配置図 (1:750)

### 3. 原之郷白川

所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字白川1836-1外

調査原因

共同住宅建設

調査期間

平成10年5月22日

開発面積 878m<sup>2</sup>

調査面積 120m<sup>2</sup>



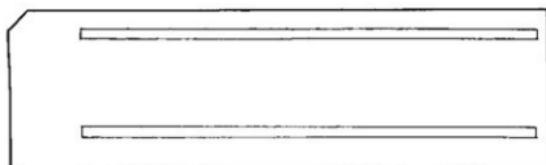
第6図 原之郷白川

#### 調査の経緯

調査地の南側には周知の遺跡（原之郷下白川）が近接している。開発計画が把握できた段階で現地確認を行ったところ、調査地の現況は西側の谷地に面する台地上にあり、土器片が散布していたため、試掘調査を行った。

#### 調査の結果

古墳時代以降に堆積したと思われる砂礫層や粘性土が互層状に堆積しており、各面とも明瞭な遺構・遺物は検出されていない。よって調査地は遺跡ではないと判断された。



第7図 トレンチ配置図 (1:500)

## 4. 漆窪向田遺跡

所在地

勢多郡富士見村大字漆窪字向田115番1

調査原因

露天資材置場

調査期間

平成10年5月28・29日

開発面積

1,216m<sup>2</sup>

調査面積

140m<sup>2</sup>



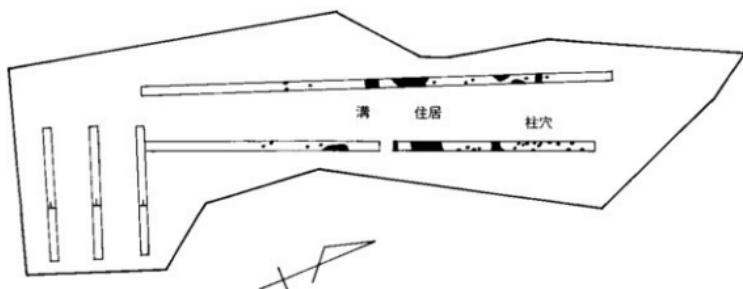
第8図 漆窪向田遺跡

調査の経緯

調査地は漆窪城の南に谷を挟んで位置する台地の西側裾部に位置する。周知の遺跡ではなかったが、現地確認の際に遺物の散布が認められたため、試掘調査を行った。

調査の結果

調査地の南端は台地から急角度で西側の谷地に落ち込んでおり遺構等は検出されなかった。しかし、北側から中央部にかけては平安時代頃と思われる多数の竪穴住居跡、掘立柱建物跡を含む可能性のある柱穴群、溝跡等が検出され遺跡地であることが確認された。但し、遺構検出面までは約60cmの層厚があり、十分な保護層が確保されていることから、現状保存が可能と判断した。



第9図 トレンチ配置図 (1:500)

## 5. 原之郷諏訪場

### 所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字諏訪場1606番1

### 調査原因

共同住宅・分譲住宅建設

### 調査期間

平成10年6月26日

開発面積 2,111m<sup>2</sup>

調査面積 300m<sup>2</sup>



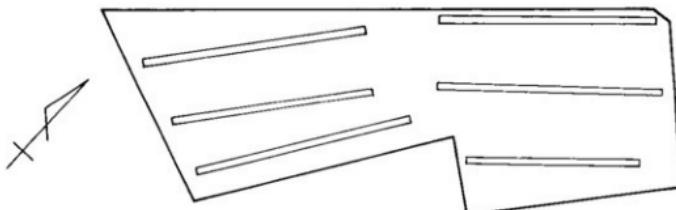
第10図 原之郷諏訪場

### 調査の経緯

開発予定地は周知の遺跡ではなかったが、現地確認の際に少量の遺物が散布しており、過年度調査を行った原之郷鰐沢遺跡に近接すること等により、試掘調査を行った。

### 調査の結果

北端部には過去に行われた場整備事業の際の残土が表土下に厚く埋設されていた。それ以外の部分では地表面下約40~60cmのローム面まで掘削を行ったが、数点の縄文土器破片が出土した以外には明瞭な遺構・遺物の出土はなかった。よって、開発地は遺跡地ではないと判断された。



第11図 トレンチ配置図 (1:750)

## 6. 原之郷善養寺

### 所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字善養寺235番地

### 調査原因

無線鉄塔建設

### 調査期間

平成10年8月7日

開発面積 180m<sup>2</sup>

調査面積 15m<sup>2</sup>

第12図 原之郷善養寺

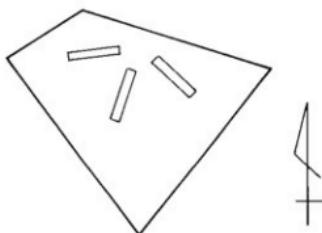


### 調査の経緯

調査地東方の旧利根川崖端には過去多数の古墳があったとされている。今回の開発に当り現地調査を行ったところ、開発予定地の一角に円丘状の高まりが認められたため、古墳の可能性を想定して試掘調査を行った。

### 調査の結果

調査地全面の表土層直下には円丘状の高まりも含めて赤城白川流域の自然堆積物と思われる固化した砂層が堆積しており、古墳の周溝、葺石、石室等は発見できなかった。これにより開発地は遺跡地でないことが確認されたため、工事着手に問題ないと判断された。



第13図 トレンチ配置図 (1:550)

## 7. 時沢畑ケ田

### 所在地

勢多郡富士見村大字時沢字畑ケ田288番地1

### 調査原因

鉄塔建設

### 調査期間

平成10年10月28日

開発面積 169m<sup>2</sup>

調査面積 22m<sup>2</sup>

第14図 時沢畑ケ田

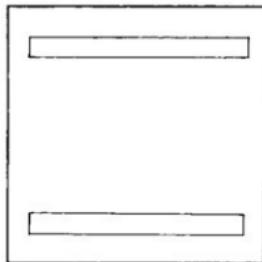


### 調査の経緯

調査地は観音川右岸の台地東斜面に位置している。周知の遺跡ではなかったが、開発に際し散布調査を行ったところ、土師器その他の遺物が散布していたため試掘調査を行った。

### 調査の結果

調査地の西端は薄い表土層直下にローム層が検出されるが、東側は浅間C軽石を含む黒色土が残存し、その下に暗褐色土に褐色土を斑状に含む土層が堆積する。この土層中には礫が含まれ、下位にいくほど多くなり、疊層となる。西端から台地上位は安定したローム台地が形成されており、周辺には遺物が散布することから、遺跡の存在する可能性は高いと思われる。しかし、調査範囲内からは遺構・遺物が検出されず、工事実施に問題ないと判断された。



第15図 トレンチ配置図 (1 : 250)

## 8. 時沢西高田B遺跡

### 所在地

勢多郡富士見村大字時沢字西高田102番地1外

### 調査原因

店舗建設

### 調査期間

平成10年11月5・6日

開発面積 2,999m<sup>2</sup>

調査面積 240m<sup>2</sup>



第16図 時沢西高田B遺跡

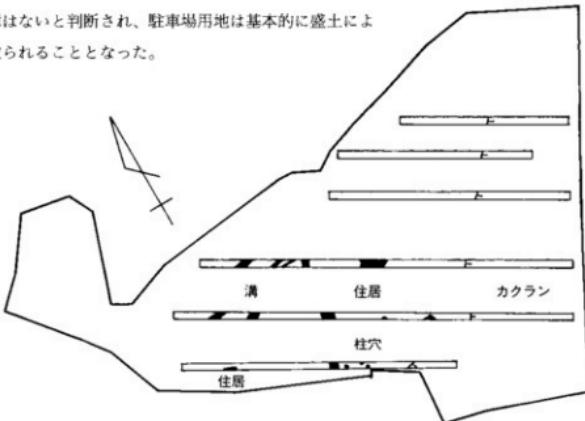
### 調査の経緯

調査地は今年度発掘調査を行った西高田遺跡と同一の台地上に位置し、南方に近接することから、遺跡が連続する可能性が考えられたため、開発に先立ち試掘調査を行った。

### 調査の結果

東端部の10m前後は比較的新しい時期の残土が埋設されており、遺構・遺物は検出されなかった。店舗建設部分は擾乱を受けていないものの、遺構・遺物は検出されなかった。駐車場用地には平安時代頃と思われる竪穴住居跡や土坑・柱穴、時期不明の溝跡等が検出された。この結果、

店舗部分は開発に支障がないと判断され、駐車場用地は基本的に盛土による現状保存の措置が取られることとなった。



第17図 トレンチ配置図 (1:750)

## 9. 原之郷大谷地

### 所在地

勢多郡富士見村大字原之郷字大谷地2405番地

### 調査原因

分譲住宅建設

### 調査期間

平成11年3月19日

開発面積 2,059m<sup>2</sup>

調査面積 105m<sup>2</sup>



第18図 原之郷大谷地

### 調査の経緯

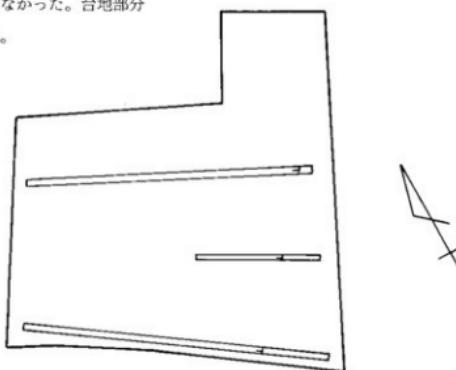
開発予定地は周知の遺跡ではなかったが、開発計画が把握できた段階で遺物散布調査を行ったところ、少量の遺物が散布していたため試掘調査の必要が生じた。

### 調査の結果

開発予定地内に任意に3本のトレンチを設定し、重機によって掘削を行った。

その結果、対象地の東端部は地表下約30cmでローム面に達する台地地形であったが、中央部から西側の部分は台地から漸移的に西側に向かって下り込む弱い谷地状の地形であった。この谷地部分には部分的に浅間B軽石層の堆積が認められ水田等の存在も否定できない。

が、今回は明瞭には畦畔は確認できなかった。台地部分にも遺構・遺物は認められなかった。



第19図 トレンチ配置図 (1:750)



1. 時沢西高田遺跡遺構検出状況



2. 時沢西高田遺跡遺構検出状況



1. 旭久保C遺跡遺構検出状況



2. 旭久保C遺跡遺構検出状況



1. 旭久保C遺跡遺構検出状況



2. 旭久保C遺跡遺構検出状況



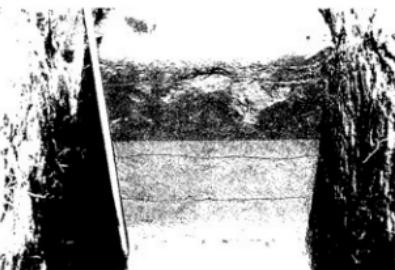
1. 旭久保C遺跡遺物出土状況



2. 旭久保C遺跡遺物出土状況



3. 旭久保C遺跡遺物出土状況



4. 旭久保C遺跡上層堆積状況



5. 旭久保C遺跡作業風景



1. 原之郷白川トレンチ掘削状況



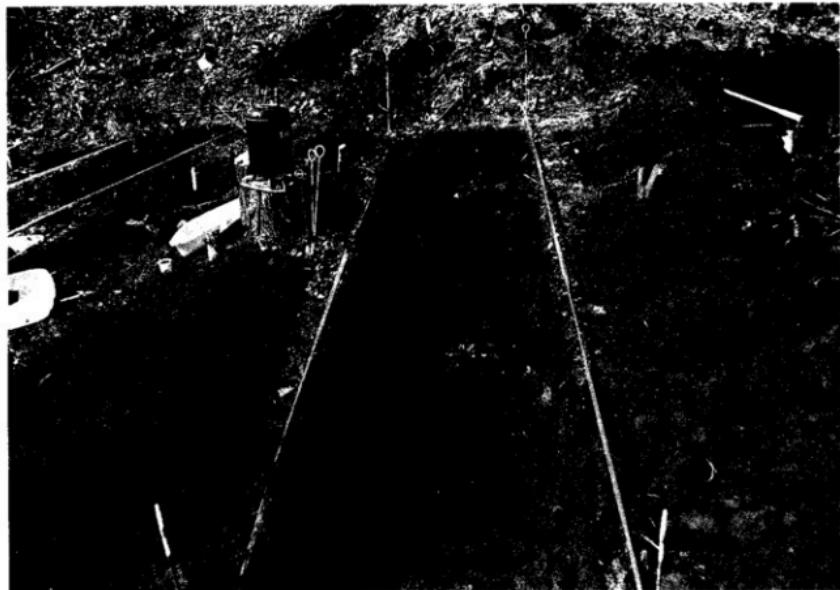
2. 漆溝向田遺跡遺構検出状況



1. 漆溝向田遺跡遺構検出状況



2. 原之郷諏訪場トレンチ掘削状況



1. 原之郷善養寺トレンチ掘削状況



2. 時沢畠ヶ田トレンチ掘削状況



1. 時沢西高田B遺跡トレンチ掘削状況



2. 原之郷大谷地トレンチ掘削状況

平成10年度  
村内遺跡

---

平成11年3月24日印刷  
平成11年3月31日発行

編集・発行／群馬県勢多郡富士見村教育委員会  
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1  
電話 (027) 288 6111

---

印 刷／朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社

---